

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001401		
法人名	有限会社 セブレコーポレーション		
事業所名	グループホーム おおさかの里		
所在地	〒824-0225 福岡県京都郡みやこ町犀川大坂646-1		TEL0930-42-0801
自己評価作成日	平成 23 年 12 月 6 日	評価結果確定日	平成23年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の時に合わせ、理念である『のんびり ゆっくり 地域とともに』の実践と共に、認知症の方々のパートナーとしての職員育成に力を入れて行き、地区・地域の方々への認知症・ホームの理解を進めるよう努力して行きます。月に一度、習字・裁縫に近隣の方々ボランティアとして来所して下さいます。今まで一度も筆を持った事のない方が字を書かれご家族が喜んで下さったり、昔取った杵柄で、上手に運針され、浴衣地で帽子を縫われたりと、楽しいひと時を過ごされています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「のんびり、ゆっくり、地域の中で」という理念を掲げ、四季を彩る大坂山を見上げ、季節の変化を感じながら、ゆったりとした時間を大切に、利用者職員は喜びや悲しみを分かち合い、自然環境の中で、生き生きと暮らしている。オーナーである管理者は、利用者へのペースで支援していくことを、信念とし、職員達が利用者のペースを優先した介護サービスに取り組み始め、開設6年目にして、到達した喜びは大きいものがあり、利用者へ接する様子を家族が見守る姿は、安心と、信頼の絆に包まれている。協力医療機関と、かかりつけ医を活用した医療連携は、気配りのある職員達が、利用者一人ひとりの、その日の状態をチェックし、万全の体制である。また、地域住民との関係も、管理者、職員の人柄で、充実した信頼関係に繋げ、地域の一員としての活動が始まっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		TEL093-582-0294
訪問調査日	平成23年 12月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や支援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成しており、玄関先に掲示し、申し送り時唱和している。また、ミーティング時には理念を基にした話し合いを行っている。	「のんびり ゆっくり 地域と共に」という理念を掲げ、申し送り時に唱和し、理念について話し合い、利用者一人ひとりの生活、心、人生を尊重し、穏やかでその人らしい暮らしが出来るよう、常に理念を意識しながら支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域住民との日常的な付き合いもあり、ホームの庭は子供の遊び場となっている。地域の行事等には積極的に参加している。(盆踊りの参加・保育園児との交流・七夕祭りや敬老会では地域の方を招き交流している。)	ホームの敬老会は、家族、地域の方、ボランティア等が大勢参加し賑やかに行なわれる。保育所の運動会へ出かけたり、保育園児がパンジーを植えたプランター等お土産を持って来訪し踊りを披露してくれたりの相互交流が定期的に行なわれ、利用者の大きな楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の独居老人の情報を家族、包括支援センター等報告を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族や行政には運営推進会議(2か月に一回)へ参加して頂き、報告をしている。また、包括支援センター主催の『認知症サポーター講座』の開催をすすめ、ホーム立地地区での開催を実現して頂いた。	2ヶ月毎の会議では、参加者からの積極的な意見、要望、質問等が出され、ホームの課題についても話し合う充実した会議である。会議の中の発言がきっかけとなり、行政によるホーム前の坂道の舗装が実現する等多数の成果が生まれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議とは別に、町の相談員の派遣を依頼している(月一回来所)。	運営推進会議に行政職員や相談員が出席し、ホームの現状を把握してもらっている。また、地域包括支援センターの勉強会「みやこ町事業者連絡会議」に参加する等、協力関係を築くための努力をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的な拘束を常に考え、玄関、リビング等に一切施錠していない。	管理者は職員に対して、「利用者さんとの話の中で否定はなるべくしないで話を聞いて下さい」と話し、身体拘束廃止や虐待防止について、日常的に話す事で職員に理解してもらい、玄関の施錠を含め、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。職員会議の場で話し、かつ包括支援センターの主催する虐待防止講習会に職員を派遣し、虐待の防止への意識を高め、虐待の無いよう職員一同努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議等で行政からの説明を聞き、職員へはミーティング時等説明を行っている。	制度の資料を行政から調達し、また、運営推進会議の中で、行政職員から制度についての話をしてもらおう等、職員の制度への理解を深め、いつでも利用者や家族に説明できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には書類を2部作成し、十分な説明を行い、疑問点を解決したうえで、理解や納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて、運営推進会議や外部の相談員に意見を表せる機会がある。	運営推進会議に、相談員に参加してもらい、家族と話がしやすい関係作りに取り組んでいる。また、運営推進会議の後に家族会を開催し、意見や要望を聴いたり、ホーム来訪時や電話等で意見を聴きだし、出来るだけホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を設けている。また、日々の勤務時、意見、提案を聞き反映させている。必要であれば、ミーティング時に議題として取り上げるようにしている。	毎月定期的に行なわれる職員会議では、意見、要望が活発に出され、出された意見については検討し、出来るだけホーム運営に反映させている。また、管理者は、日々の申し送り時やミーティング時に気づいた事や意見を言い易い雰囲気作り努め、サービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『職場意識改善計画』を実行しており、有給休暇を取りやすい環境を整えている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークの求人や求人情報誌等を使用し、広く募集を行っている。社会参加、自己実現の権利においては、社外研修、講習会、資格取得等、積極的にバックアップし、取得して頂いている。	職員の採用規定は特に設けず、人物や、やる気を優先し採用している。また、職員のスキルアップを図るため、内、外の研修参加を積極的に勧め、技術の向上や資格取得のための支援体制がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一人ひとりの尊厳を守ることに重点を置き、日々生活に円滑に送れる様に支援する事を目標としている。また、外部研修にも積極的に参加している。	理念について掘り下げて話し合う機会を持ち、利用者一人ひとりの尊厳を守るために何をすべきか職員間で話し合い、職員の人権意識を高める啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な外部研修、施設での定期勉強会等を積極的に受講して持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京築地区グループホーム協議会に参加している。またみやこ町ケア事業者連絡会にも積極的に参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との会話を重視し、笑顔で目を合わせ会話するように心がけている。問いかけには無視をしない。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会を設けて、相談できるよう機会をつくっている。ご意見箱を設置している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近隣の介護施設や病院、居宅介護支援事業所と連携しており、またグループホーム協議会も通じて、他の様々なサービスに対応できる体制をとっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今まで経験されたことを活用して、日々の生活の場面に活かしている。(家事・農業・趣味など)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者を差別することなく、家族とも良い関係を築けるようにしている。入居者に変化があった時や、本人から家族への希望などは、直ぐに連絡をとるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の時には、家族に伝え、共に過ごせる時間を支援出来るように行っている。	ホーム前の民家の住民と利用者が昔からの知り合いで行ったり来たり一緒に外出したりの関係が続いている。また、家族、親戚も含め、友人、知人の訪問が多い。週2回のごみ出しには利用者も一緒に参加し、挨拶を通じてご近所とも顔なじみの関係が築けるよう取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重して、利用者同士が関わり合いが行えるように、時に見守り、また職員が間に入り会話やお互いが関われるように勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族から連絡があり、相談等がある。退去された利用者や家族との付き合いを大切にしていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに対し、担当職員を決め、特に担当職員は担当入居者本人の希望や意向を聞き、感じて職員会議の場や担当者会議にて伝え、職員全員で共有している。	利用者と馴染みの関係を築いているベテラン職員が、表情等少しの反応から利用者の思いや意向を汲み取り、それを新人職員にも伝えながら全員で把握し、利用者にとって一番良い方法を検討し、支援できる取り組みがある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味を記録している。また、日々の生活の中で入居者の言葉の中に出てくる情報を記録している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会議にて、個々の心身状態を職員全員が共有し、それをケアプランに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意向を聞き入れ、担当者会議にて介護計画を作成し、本人と家族が納得した上で、承諾をとっている。	担当者会議に利用者と家族の参加があり、そこで思いや要望を十分に聴き取り、それらを反映しながら3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、状態に変化があった場合は、家族、関係者で話し合い、相談しながらその都度対応している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録して、会話内容も記録している。連絡ノートを作成しており、共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があった時点で、直ちに職員会議を開き、地域資源等を活用し、当ホームでの出来る限りのことを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の区長、福寿会、民生委員、介護福祉課、包括支援センター等の方々に運営推進会議等に参加して頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、かかりつけ医があり、本人の状態により往診も受けられるように、医師と連携をとっている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医と協力医を活用し、利用者の健康管理を支援している。また、看護師が数名いることから細かい所の気配りやチェック体制は充分である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに3人の看護師、1名の准看護師がおり、入居者の病状や状態を協力病院の看護師と話し合い、相談しながら、とても良い関係を築いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院があり連携している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームとして、ターミナル期(終末期)も介護を続ける意向を家族にも伝えている。ホームでは行えないことは(医療行為)協力病院と連携をとり支援している。	管理者の思いを職員が理解し、利用者や家族の思いを優先した重度化に向けた支援をしている。また、協力医療機関と連携し、ターミナルに向けた支援体制に取り組む努力をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成している。また、避難訓練等を利用し救急蘇生法の訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急避難場所の確認を行い職員勢員が場所、誘導方法の確認を行っている。また、近隣の住民や地区の消防団にホーム内の状況を把握して頂いている。	自衛消防組織を作り、避難訓練を実施している。また、災害時に備えて、避難場所になる公民館にも非常食を置いてもらえるよう頼む等、地域との協力関係を築く努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり名前で呼んでいる。個人情報の取り扱いには文書にてマニュアルがあり、これを順守している。入居時に本人と家族に書類にて伝えている。	職員の穏やかでのんびりした雰囲気が利用者に伝わり、笑顔に溢れた楽しい暮らしを実践している。一人ひとりを尊重したきめの細かい介護によって、利用者の残存能力を高め、その人らしい生き生きとした暮らしを支援できている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ時には目線をあわせゆっくりとした会話に努めている。自己決定をされる場合には、選択肢はひとつに決めず何通りかを選択できるように対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるように、家族にも相談をして本人の尊重を聞き、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む店舗に行けるように努め、送迎をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みや嫌いなもの、または食べれないものを表にしている。毎日、入居者と職員が食事の準備や片付けを一緒に行っている。	利用者の嗜好を調査し献立に活かし、野菜を沢山使ったバランスの良い食事を提供している。利用者と職員は、同じテーブルで同じものを、会話を楽しみながら食べ、家庭的な温かい食事の光景である。また、利用者が自慢の美味しい煎茶を職員に入れて振舞っている姿も見られた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事摂取量を記録している。また水分摂取量も記録している。献立についてはカロリー計算をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握して、本人にあった誘導や声かけを支援している。	排泄チェック表をもとに、職員は利用者の排泄パターンを把握し、優しい声かけやさりげない誘導で、排泄の自立に向けた支援をしている。病院からの入居後、職員の細やかな支援を受けて紙おむつから布パンツになった事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、軽運動や飲食物の工夫(1日に一度は寒天やリンゴ等といった食物繊維を多く含む食物をおやつに提供している。)を行い、排便間隔の長い時には、かかりつけ医と相談の上薬を服用して頂き、排泄管理を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の時間に合わせ、入浴を行っている。	入浴は1日おきであるが、利用者の状態やその日の気分で臨機応変に対応している。また、入浴を拒む利用者に対しては、タイミングをずらしたり、人を代えたりしながら職員間で知恵を出し合い、工夫をして、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠や休息パターンを毎日記録して表している。時に声かけし、気持ちよく休まれるように入眠を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管しており、変更があれば申し送りノートや個人記録書に記入している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を活かして日常にて役割や楽しみごとを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的買い物に行き、それ以外にも個人の行きたい場所の希望により外出している。	すすきやコスモス、紅葉狩りと、季節を感じる事が出来るよう、職員の頑張りのもと外出の支援をしている。また、気候の良い時には、テラスに置かれたソファーに腰掛け、ゆったりと戸外の景色や鳥の声を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に預かり金より本人にお金を渡し、買い物物の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に電話設置しており、いつでも利用出来るよう支援している。また、親類からの手紙に対し、本人に出来る限り返信をして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の意見を聞き、季節にあわせ一緒に模様替えを行っている。季節の花を飾っている。	自然に恵まれた環境の中、違和感のない建物内には、あちらこちらにゆったりと座れるソファを置いて、利用者が思い思いの場所で寛いでいる。観葉植物や季節の花を飾り、テラスには大きなソファを置いて、居ながらにして季節を感じる事ができる居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを配置しており、入居者が独自に座る場所があり、皆で仲良く会話を楽しんでいる。ウッドデッキにベンチを配置し、天気の良い日には窓を開け、気軽に利用できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人の意向を尊重し、また、家族の理解を得て、本人の使い慣れた物や、馴染みがある家具などを使用して頂くよう勤めている。消耗品(箸や茶碗など)については、随時家族会にて家族に伝え、持ってきて頂いている。	居室には、利用者の使い慣れた馴染みの家具や小物を、家族と相談しながら持ち込んでもらい、利用者が穏やかに落ち着いて暮らすことができるよう支援をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。廊下やトイレ、洗面場には手すりをつけている。自立した生活が送れるように、杖や歩行器を用意している。見当識障害のある場合を想定して、居室のドアやトイレや浴室に印をつけている。		